

米国では障害者を「チャレンジド」と呼ぶ。「神から挑戦の機会を与えられた人々」という意味だ。夢や希望を失ってしまったかのように閉塞感漂う日本にも夢を追いかけるチャレンジドがいる。挑戦する彼らの「物語」を追ひ、希望の扉を開く勇気をもらいたい。

「フスソソを巻くときは空気を入れないよ」と押しつけて押し。昨年11月19日、日清製粉東灘工場神戸市東灘区で開かれた神戸スイーツ・コンソーシアムの11年度最終講座。講師のフランス菓子プロリエット（東京都世田谷区）オナシエフ、永井紀之さん（50）が受講生にクリスマスケーキフッシュ・ドゥ・エールの作り方を伝授した。講座は、社会福祉法人「フロップ・ステーション」（神戸市東灘区）と日清製粉が08年から企画。洋菓子作りのプロを目指す障害者に二流パティシエが指導する。この日は精神・知的障害者が受講した。受講生の徳山雄祐さん（30）＝同市西区は、難しいけどやりがいがある。僕も永井さんのようなパティシエになりたい」と目を輝かせた。永井さんの長女14はダウン症の障害者がある。「娘は成長していくにつれ、社会の支えが必要になる。私も自分が教えることができるお菓子作りで支える側になれば話す。08年の開講当初から指導する。モロソフ・テニカルディレクター、八木淳司さん（60）

洋菓子講座 教材は 職人技

の三男悠三さん（16）も軽度の知的障害で、愛知県の養護学校高等部に通う。「この子の将来はどうなるんだろう。八木さんは父親として息子に心配する。一方で、障害者の作業所などで作るお菓子が気になっていた。単調な味で、彼らの自立を支えるだけのレシピとして成立してはいなかった。悠さんの将来のために、状況を変えたい。そう考えていたところ、フロップ・ステーションの竹中ミ理理事長から協力を求められ、引き受けた。講師は八木さんの人脈から紹介され、意気に感じた。流しアップシエが毎回、手弁当でやって来る。永井さんもその一人だ。八木さんは受講生について「4年間一緒にやって来て、彼は限られた時間なら集中して仕事ができる。フォローさえすれば、十分就労が可能」と手心を感える。さらに、「私たちは趣味的な講義を聞いているわけではない。将来は彼らが作った商品が売れるまで持つていきたい」と強調する。チャレンジド障害者の可能性を信じて。パティシエという夢に向けた挑戦は、そんな人たちに支えられている。【桜井由紀治】

希望の扉を開けて

神戸市北区の神戸電鉄大池駅前にある洋菓子店「スイーツ・フアクトリー・ポテ」のプリン「絶品」と地域で評判だ。店を運営する障害者支援事業所に通う内海友人さん（36）＝同区＝が中心となって作る。「神戸スイーツ・コンソーシアム」の受講第一期生で、八木淳司さんらプロのパティシエの手ほどきを受けた。

トンネル抜け再出発

スイーツ作りに励む。おしさの秘訣を尋ねると、「愛情を込めて作る」と笑顔を見せた。彼は「引きこもり」という長いトンネルをくり抜け、ここに自分の「居場所」を見つけた。

■ 中学時代の成績は常にトップクラス。周囲の期待は大きくそれに応えようと、1日10時間、勉強したこともあった。高校は県内有数の進学校で、大阪大工学部に現役で合格した。今思えば無理をしていた。

■ 人間不信に陥り大学を休みがちとなった内海さんは、統合失調症と診断された。被害妄想が強く、奇妙な体験は特有の症状だった。海さんは何とか卒業したものの、症状はひどくなる。一方で大学院の入

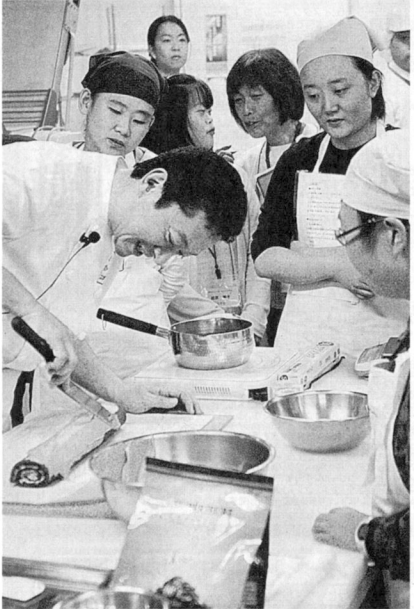
■ 心に変化が起きた。周りの自分へのうわさや、おぼろげに感じている。彼はそれから約7年間引きこもった。自宅のソファに座っているだけの日々を送った。ようやく見えた。自分の家族からずんずん離れていくのが世界の中の人々に伝わっている気がした。

■ 援もあり、内海さんの現状は少しずつ改善された。05年ごろからは引きこもりもなくなり、病院の作業療法に参加した。園芸実習などで同じ障害者を持つ仲間と出会い、人話すことが楽しくなっ



開店前に事業所の女性職員と打ち合わせをする内海友人さん（右）＝神戸市北区内海さん（左）＝が中心となって作る「神戸スイーツ・コンソーシアム」の受講第一期生で、八木淳司さんらプロのパティシエの手ほどきを受けた。

パティシエへの道



「神戸スイーツ・コンソーシアム」で、ケーキの作り方を伝授する永井紀之さん（左）＝神戸市東灘区の日清製粉東灘工場＝

6年前から通う事業所「フアクトリー」では、地域の人とふれあひ、自分の作ったお菓子が、おいしいと喜んでもらえる。引きこもっていた時は自分自身の中に隠れていたが、今は社会に必要とされていると思えるようになった。

内海さん親子は気持ちを支え直に伝えるからと、手紙の交換を始めていた。内海さんが母に宛てた手紙には「産んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。信じてくれてありがとう。春美さんは思わす涙した。内海さんは自立に向けて